

『第5回学生が選ぶインターンシップアワード』団体応募データ



団体情報		
	応募区分	団体
	管理ID	200484

ISタイトル

【実践型オンラインインターンシップ】SNSで小田原市の魅力を発信しよう！

オリエンテーション 事前学習（実施項目）

インターンシップ参加目的の明確化 インターンシップの内容説明 業界・企業・仕事内容の説明 人事や社員による講義・レクチャー 社員との交流・座談会

オリエンテーション 事前学習 内容詳細（自由記述）

次のとおりオリエンテーションを実施しました。
 ・今回はオンラインでの実施ということもあり、市外県外からの参加者が半数を占めていたため、小田原市の特性や課題など、小田原市のことを知ってもらうための説明をしました。
 ・SNSを利用したプログラムのため、実際に職員が使用している「小田原市ソーシャルメディア利用ガイドライン」に沿って、自治体職員であることの自覚と責任を持ち、SNSを利用する際の基本的な考え方や留意点、リスクなどを説明しました。
 ・プログラム内容については、観光課職員（SNS担当者）により、SNS記事内容の企画立案から投稿するまでの流れをステップごとに分けて説明しました

インターンシップ 実施項目

【実務体験】実際の業務を一部実施 【疑似体験】課題に対するグループワーク（企画立案、課題解決、プレゼンなど） 【交流】社員との座談会 【交流】参加学生との座談会 【その他】人事や社員による講義・レクチャー 【その他】就職活動に対するアドバイス・レクチャー

インターンシップ 内容詳細（自由記述）

歴史・文化・自然・食など、小田原市はたくさんの魅力を持っています。今回のインターンシップでは、そんな小田原市の魅力をSNSを通じて全世界にPRするため、20人の参加者を5人ずつのチームに分け、チームごとにSNS用の記事を企画・作成してもらいました。作成したものは、小田原市観光PRキャラクター『梅丸（うめまる）』のアカウントから実際に投稿し、いいね数やリーチ数など世間からの反応を分析し参加者へフィードバックを行いました。
 全4日間のプログラムとし、具体的な内容は次の通りです。
 【1日目】
 参加者自己紹介、オリエンテーション、チーム分け、アイスブレイクなど
 【2日目】
 記事内容を企画立案するためのグループワーク、企画した記事内容のプレゼンテーション、観光課職員（SNS担当者）によるプレゼンを受けての記事内容の講評・アドバイス
 【宿題】
 3日目までに、写真・動画撮影を含めてSNS用記事を完成させること
 【3日目（2日自実施日から1週間後）】
 作成した記事のプレゼンテーション、観光課職員（観光課長及びSNS担当者）によるプレゼンを受けての記事内容の講評・最終校正指示
 【4日目（3日自実施日から2週間後）】
 観光課職員（観光課長及びSNS担当者）による投稿記事の分析・講評、新採用職員との座談会（就活の相談や質疑応答）、修了式（オリジナル修了証書授与）

協力社員の属性

課長（マネージャー） 主任（チームリーダー） 若手社員

具体的社員交流

・今回の業務が「SNS投稿」であったため、普段業務でSNS投稿をしている経済部観光課の職員（観光課長及びSNS担当者）が、講師役として参加しました。
 ・プログラム以外に、新採用職員との座談会の時間を設けました。年代の近い職員ということもあり、採用試験に向けての準備や、実際に働いてみて感じたギャップなど、ざっくばらんな意見交換がなされました。

NO. _____

インターンシップ情報			
開催月	2021年8月		
	学生の入入日数	4日間	総受入人数
対象属性（文理）	特に対象は決めていないまたは受け入れ先によって異なる		単位認定
低学年参加	大学低学年には訴求をしなかった		20名
参加者の募集	募集に際して地域については特に意識していない。		参加者全体に占める東京圏からの参加割合（%）
他学校などの連携か？	いいえ	連携法人との連名での受賞希望	90.0%
連携した学校・企業・団体名			
報酬・支給	報酬・支給等はなし	報酬・支給の支払額	
実施形式	全てオンラインで実施		

フィードバック手法

グループに対する口頭と書面の両方

フィードバック時間	30分未満	フィードバック頻度	プログラム期間中複数回実施した
-----------	-------	-----------	-----------------

FB内容詳細（自由記述）

プログラム中、計3回のフィードバックを実施しました。具体的な内容は次のとおりです。
 ・参加者からの記事企画のプレゼンテーションを受けて、記事内容やプレゼン方法等の講評や、記事内容をより良いものにするためのアドバイス、修正点を主にしたフィードバックを実施しました。
 ・参加者が作成した記事を実際に投稿し、いいね数（閲覧者からいいねボタンをタップされた数）、コメント数（その投稿にコメントされた数）、保存数（その投稿を保存したアカウント数）、インタラクション数（その投稿からプロフィールが閲覧された回数）、フォロー数（その投稿からフォローすることになったアカウントの数）、リーチしたアカウント数（その投稿を閲覧したアカウント数）、インプレッション数（その投稿がユーザーの画面に表示された回数）を分析し、それらのデータから、チームごとに優れた点や、より良い投稿にするための具体的な改善点などのフィードバックをしました。

フォローアップ 事後学習（実施項目）

その他

フォローアップ 事後学習（自由記述）

・参加者アンケートを実施し、インターンシップ経験を振り返っていただいた。
 ・今回のインターンシップ内容については、『月間ガバナンス10月号（株式会社ぎょうせい発行）』に特集記事として取り上げられることとなったため、参加者一人一人の頑張りがあり、今回のような特集記事に取り上げられる結果となったことを伝えながら、発行後に記事データを配布した。

工夫ポイント（自由記述）

・オンラインインターンシップを実施している自治体は他にもありますが、そのほとんどが職場説明会のようなものでした。そうではなく、オンラインでも可能な限り実際の業務に関わってもらい、また、その成果が形になって社会に出るものにした。と考え、オンラインインターンシップとの相性が良く、若者世代の力を発揮してもらいやすい「SNS投稿」という業務を選びました。
 ・参加者が慣れ親しんでいるSNSでも、自治体職員としての発信となるため、伝えようとする情報は適切か。この記事を見て嫌な気持ちになる方はいないか、など、より注意深く確認に必要があり、普段とは違った緊張感や難しさを感じていただいた。
 ・市役所にはお堅い職場というイメージが付きものですが、小田原市は風通しがよく、若手が活躍できる風土もあるため、そういった職場の空気感をオンラインでいかに感じてもらえるかを意識しました。オンラインはリアルに比べると、人と人の距離感が遠くなってしまいがちであるため、職員も含めた参加者全員をニックネームで呼び合ったり、アイスブレイクや雑談の時間を大切にしたりと、フランクで親しみやすい雰囲気づくりを心掛けました。

教育的効果（自由記述）

・初対面の人とチームを組み、同じ目標に向かい、ビジョンの共有や役割分担をしていきながら、一人一人が業務に取り組むという経験は、今後の社会生活において重要であると考えています。本市では、新採用職員に対して、チームビルディング研修を実施しているため、そのノウハウを今回のインターンシップに反映させていきました。参加学生からは、コロナ禍により大学の授業もオンラインが中心になっているため、この経験は貴重なものであったという声を頂きました。
 ・「SNS投稿」という業務は、その成果物に対する出来や効果が、いいね数やコメント数などの数字で表されるため、参加者達の努力や能力、もの見方に対する客観的な評価を得ることができました。このことで、世間のニーズはどこにあるのか。効果的な情報発信とはいかにすべきか。自治体として何が求められているのか。などといった点を深く考えていくきっかけになったと考えています。

参加者（自由記述）

オンラインでの実施であるため、参加者の居住地は不問でした。

改善活動（自由記述）

今回は、小田原市として初めての取組であったため、定員を20名としていました。来年度以降は、実践型オンラインインターンシップというフレームは変えることなく、実施回数や業務の分野を増やしていき、より多くの学生に、小田原市の仕事の面白さを体験していただきたいと考えています。